

◆開催概要

日時：10月31日(月) 18:30～21:10

場所：荷竹自治会館 出席者：検討会メンバー27名

まちづくりの方針について出た主な意見

まちづくりの方針については、3班で意見を出し合った結果、大きく以下の4つの方針に意見の集約、共有が図られました。

多くの世代が安心して暮らせる便利なまち

- ・生活するのが便利なコンパクトなまち
- ・若い人も安心して定住できる土地
- ・若者が育つまちづくり
- ・楽しみのいっぱいあるまち
- ・安全で便利なまちづくり
- ・高齢化が進んでも住めるまち
- ・老齢化により医療の充実
- ・老人が楽しく住めるまちづくり
- ・子どもたちが安心して勉強できるまちづくり
- ・学園地区、スポーツ施設
- ・子どもたちが鮭を楽しめる（観察、育てる）施設又は自然公園（鮭公園など孵化場の活用）
- ・運動公園は将来的には津波被害のない場所に建設すべき
- ・老人、子どもが安全安心に暮らせるまちづくりとして保育所を清寿荘老人施設に近い瑞雲寺付近に移転したらどうか
- ・三陸縦貫道のインターは津軽石に設置してほしい。津軽石、重茂の漁業やコネクター製品の搬送に便利
- ・駒形橋は大型車両がすれ違うことのできる広い幅員の橋にして欲しい
- ・交通網の見直しをする。JRはルート変更が必要
- ・平地部の排水を良くしてほしい
- ・排水路の整備（農業用水）

津軽石川の豊かな自然環境を残したまち

- ・原風景と残す
- ・鮭のまち
- ・津軽石川を中心として自然を基盤とした安全なまち
- ・津軽石川を子々孫々まできれいにする
- ・白鳥がたくさん来るような景観にすべき
- ・自然環境に配慮したまちにすべき
- ・津軽石川がいつまでも鮭ののぼる清流を保つように
- ・津軽石は鮭川で全国的に有名である。その観光地にふさわしい他地区に優れる復興を望む
- ・白鳥と鮭を見おろす高台まちづくり
- ・自然と調和のとれた災害のないまちづくり

避難しやすい災害に強い安全なまち

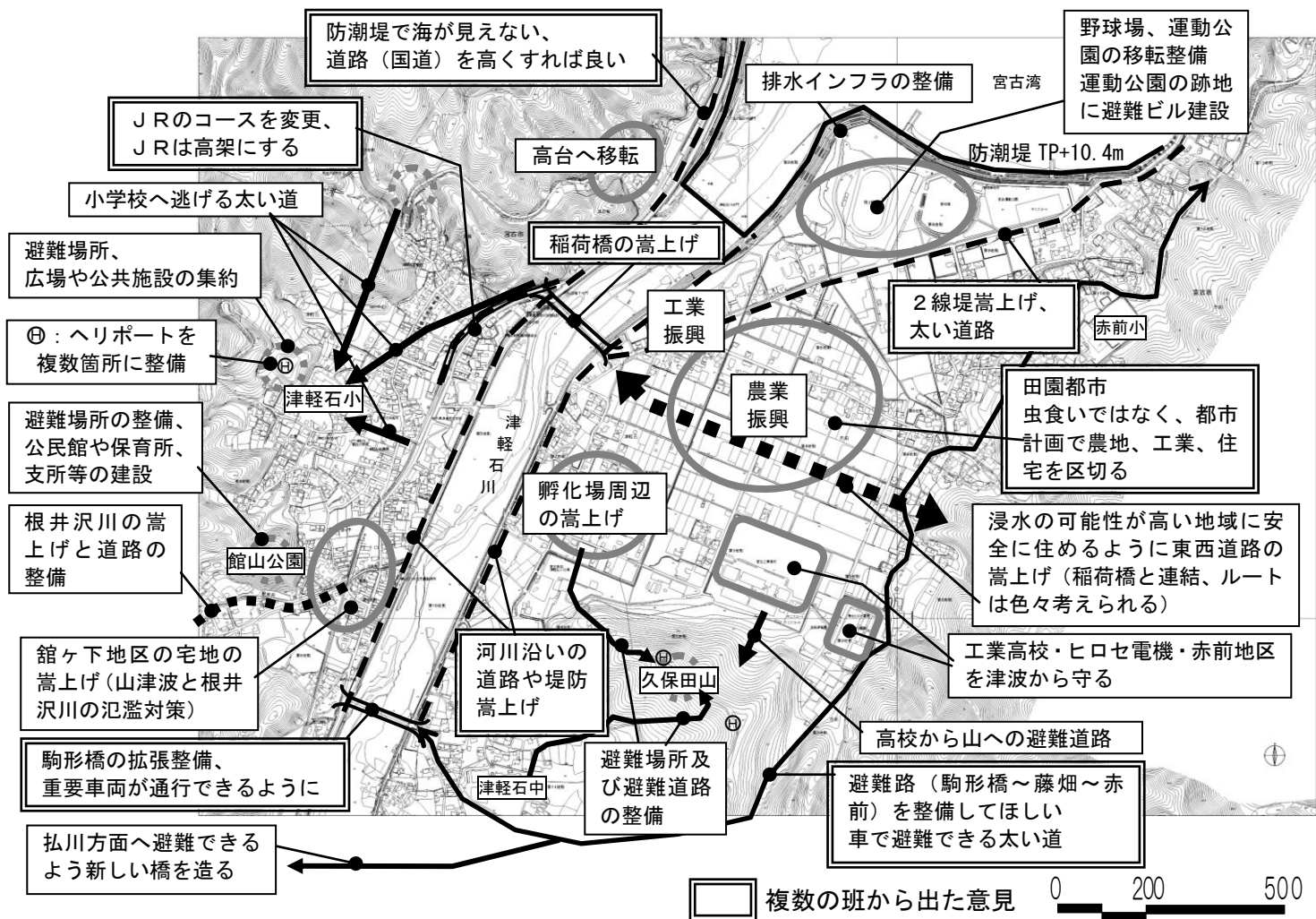
- ・安全安心のまちづくり
- ・災害に強いまちづくり
- ・防災のまちづくり
- ・被災の少ないまち
- ・安全安心して老若男女が生活できる地域に
- ・現在の防波堤の補強（幅広く、強固なもの）が大事
- ・防潮堤の嵩上げ
- ・稲荷橋～駒形橋～藤畑の堤防を補強、駒形橋までの堤防の嵩上げ
- ・県道を嵩上げしてほしい（2線堤、避難路、平地を守る）
- ・工業高校までの道路は広くしてほしい
- ・工業高校から山に至る道路の整備
- ・中学校からの避難路整備
- ・小学生を安心して迎えに行ける山側道路を造ってほしい
- ・駒形橋から藤畑経由赤前に抜ける道路の拡幅整備する
- ・災害時に渋滞することなく避難できる道路網に
- ・津波のときに救護および物資の輸送が確実にできる道路が必要
- ・避難場所の充実
- ・赤前道路（海岸に近い所）に避難建築物がほしい
- ・久保田山にちゃんとした避難所（まわりも含む）
- ・保育所あたりに避難タワー
- ・孵化場あたりも埋め立ててほしい
- ・平地を守る（重茂線の嵩上げなど）
- ・樹木を植える（災害防止、ガレキ止め）

働きやすいまち

- ・農水産物バランスの取れたまちづくり
- ・水産業を営む方々に自由に海に出られるまちづくり
- ・地区の特徴を現す（鮭川）水産業等（養殖）
- ・新鮮な野菜や米が作れるまち
- ・浸水地域を農業地域に
- ・田圃は元に戻してほしい
- ・働きやすいまち（仕事ができる）
- ・遊休地を活用し産業の活性化できるまちにして欲しい
- ・企業を誘致し地区の所得向上を図る
- ・企業を呼ぶ、色々な会社ができるまち

用地別の土地利用の方針について出た主な意見

用地別の土地利用の方針について、3班で意見を出し合った結果、以下の図に示すような意見が挙げられました。特に、河川堤防に関する意見、避難場所や避難道路に関する意見が多いほか、地区特性を生かした土地利用に対する意見が共有できました。



今回の検討会で共有できた方針

検討会で確認し、共有できた方針を整理すると以下ようになります。これらの方針をもとに、次回以降検討を深めていきます。

◆地区復興まちづくりの方針について

- ・多くの世代が安心して暮らせる便利なまち
- ・津軽石川の豊かな自然環境を残したまち
- ・避難しやすい災害に強い安全なまち
- ・働きやすいまち

◆土地利用の方針について

- ・津軽石川左岸は浸水の危険性が高く、農地と工業、住宅を区分した田園都市づくりを考える。
- ・被災した支所や公民館など、高台へ移転させることを考える。
- ・高台での避難場所を整備するとともに、自動車で避難できる避難路を考える。
- ・駒形橋から藤畑を経由し、赤前、重茂に繋がる避難路整備を考える。
- ・稲荷橋や駒形橋は渋滞がなく、逃げやすくなるため嵩上げや拡張を考える。
- ・危険性が高い区域については、嵩上げや高台移転を考える。

◆堤防などについて

- ・河川堤防や国道、JRを嵩上げするなどにより、浸水を防ぐことを考える。

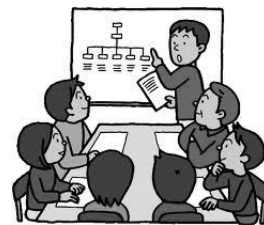


●第2回津軽石地区復興まちづくり検討会

◆開催概要

日時：11月28日(月) 18:30～21:00

場所：荷竹自治会館 出席者：検討会メンバー27名



検討にあたっての情報提供

■地区復興まちづくり便りへの意見等について

皆様からお寄せいただいた復興まちづくりに関するご意見やご提言をお知らせし、検討を進めました。

■浸水深と建物被害の関係について

宮古市の建物被害は、浸水深 2m前後で被災状況に大きな差があり、2m以下の場合では建物が全壊となる割合が大幅に低下しています。

■津波シミュレーションについて

第1回検討会では岩手県が示した T.P. +10.4mの防潮堤整備を行った場合に 3.11 のような想定される最大クラスの津波をあてた場合のシミュレーション結果をご説明しました。それに加え今回は、赤前の低地部に二線堤を整備した場合(3 ケース)のシミュレーション結果をご説明しました。稲荷橋延長線の場合は 5.5～7.5m程度、工業高校北側の場合は 3～6m程度、ふ化場付近の場合は 6m程度の二線堤の盛土高が必要になると予想されます。

また、最悪のケースを想定し、防潮堤が破壊された時でも人命を確実に守れるようにするため、避難計画は防潮堤がない場合のシミュレーション結果をもとに検討を進めました。

■宅地等の造成イメージについて

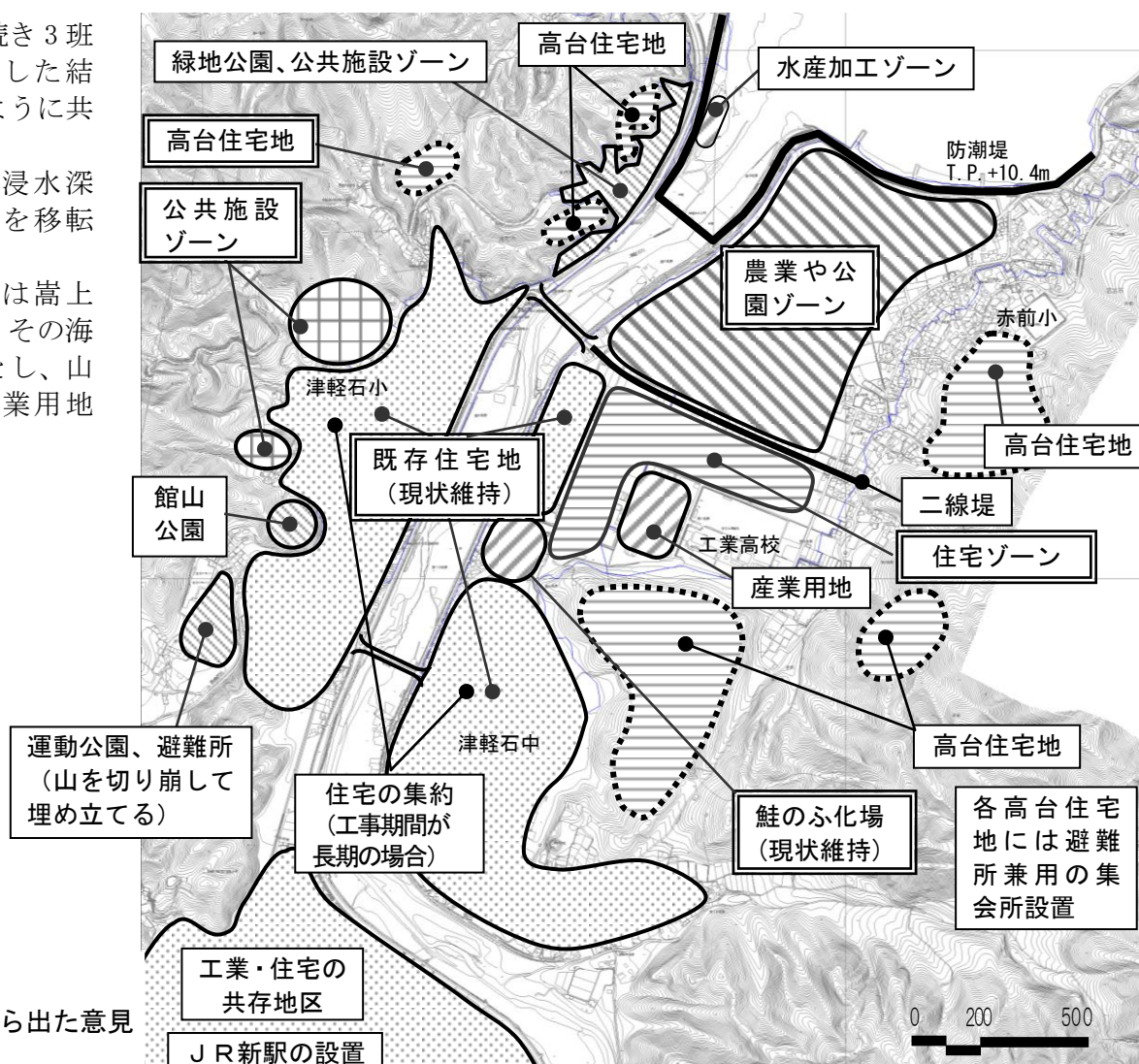
第1回検討会での意見をもとに法の脇の背後や津軽石小学校の背後地での宅地造成イメージ図をお示しし、検討を進めました。

住宅・産業等の土地利用の方針について出た主な意見

第1回に引き続き3班に分かれて検討した結果、右図に示すように共有できました。

法の脇は予想浸水深が深いので住宅を移転し公園等にする。

津軽石川右岸は嵩上げ道路を整備し、その海側は農地や公園とし、山側に住宅地や産業用地を集約する。

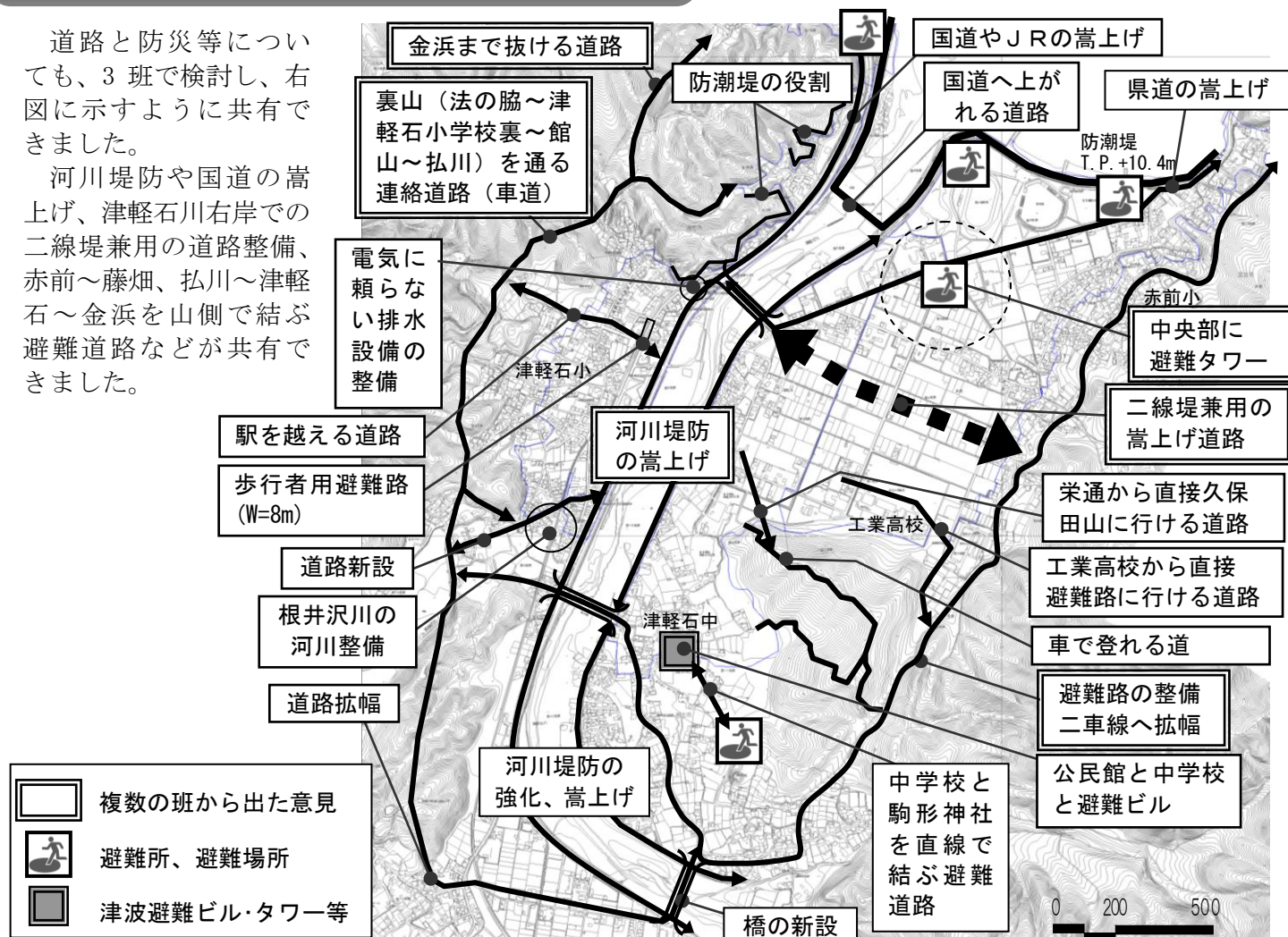


複数の班から出た意見

道路、防災等の方針について出た主な意見

道路と防災等についても、3班で検討し、右図に示すように共有できました。

河川堤防や国道の嵩上げ、津軽石川右岸での二線堤兼用の道路整備、赤前～藤畑、弘川～津軽石～金浜を山側で結ぶ避難道路などが共有できました。



今回の検討会で共有できた方針

①土地利用の方針

既存住宅地	国道45号と津軽石川河川堤防の嵩上げにより、津軽石川左岸、津軽石川右岸の栄通や駒形通などは今までどおりの住宅地。
法の脇地区	予想浸水深が深い法の脇については、住宅を背後の高台へ移転し、従前地は緑地公園や公共施設用地。ただし、高台住宅地では等価交換での宅地取得や短期間での移転が課題。工事期間が長期に渡る場合は、津軽石駅周辺や藤畑周辺などに住宅を集約。
津軽石小学校裏	津軽石支所や公民館等を集約する公共施設ゾーン。
弘川周辺	現状どおり工業や住宅が共存するゾーン。
工業高校周辺	津軽石川右岸に整備する二線堤兼用道路の山側は住宅地、既存工場等の集約ゾーン。ふ化場については、現状維持。
津軽石川右岸海側	予想浸水深が高い区域は農地や公園ゾーン。

②道路、防災等の方針

河川堤防の嵩上げ	県で示される防潮堤整備のほか、河川堤防の強化や嵩上げ、国道の嵩上げ。稲荷橋、駒形橋の拡幅、嵩上げと、藤畑弘川間の橋梁新設。山津波への対策として根井沢川の河川整備。
二線堤兼用道路の整備	予想浸水深が高い区域は津軽石右岸では二線堤兼用道路の整備。
避難道路の整備	津波発生時での自動車ですぐに避難できるよう集落を取り囲むように山側での避難道路の整備（赤前～藤畑、弘川～津軽石～金浜）。津軽石川左岸において山側に迅速に避難できるよう道路の整備。久保田山に迅速に避難できるよう栄通からの避難道路等の整備。工業高校から避難道路へ迅速に避難できるよう道路の整備（嵩上げ）。津軽石中学校と駒形神社を直線で結ぶ避難道路の整備。
津波避難タワーの整備	予想浸水深が深い区域内における津波避難タワーなどの整備。